

———— テーマ：わかりやすい話とは、日常の日本語 ————

1 わかりやすい話とは

1.1 先ずはコンピュータの記憶領域の話

- レジスタ：CPU 内にあるので高速にアクセスできるが、領域は小さいので、頻繁にアクセスする必要のある変数のみここに置く。
- メモリ：プログラムと、通常の変数のデータはここに置いて処理される。
- ハードディスク：大量のデータが保存できるが、アクセスに時間がかかる。保存用のデータを置くのに適している。

1.2 人間の頭も似たようなもの

- 人間の記憶も似たようなもので、意識に上っている記憶、すぐに思い出せる記憶、良く考えないと思い出せない記憶がある。
- ものを説明をするときは話の始めにキーワードを意識に植えつけ、それを常に意識させながら話を展開するとわかりやすい。
- 頭のレジスタに入りきる位に文は適度に短くしよう。
「 で、 なんだけど、 と思ったら、 かもしれないし、...」
のような「、」で続く文は聞いているうちにレジスタをはみ出てわからなくなってしまう。

1.3 分かる・ひらめくとは

- 脳細胞が広く枝を伸ばして今までの知識と結びつくことが「分かる」ということ。
- 「ひらめく」というのは偶然にひらめくのではなく、わかるうわかるうとする努力によって脳細胞が成長した結果である。

1.4 ついでに言っておくと

- 理系の勉強は修業だと思ってコツコツと積み上げましょう。
- 100 勉強して 3 使えたら御の字 (おんのじ)。山ほど勉強するからその幾つかが結びついて未知の問題が解けるようになるのです。
- 「必要になった時に勉強すればいい」などと悠長なことを言っていると、その「必要になった時」には勉強すべきことが多すぎて取り返しがつかなくなるよ。

1.5 起承転結

- 「起承転結」は話の基本。
- 「起」では話の内容を簡単に説明する。すると、これから聴く個々の話が、全体の中でどういう意味を持つかがわかって理解しやすくなる。キーワードを意識に植えつけるのもここ。
- 「承」で詳しい内容に入る。
- 「転」では話を新たな局面に展開する。その新鮮さが刺激となって「承」の部分の話ともども一層理解が深まる。
- 「結」でもう一度全体の話をもとめることによって、脳の中に話がよく整理されて記憶される。

1.6 アルゴリズム → プログラム → 機械語

- 問題を解く手順をアルゴリズムという。人間が理解しやすい形で記述する。
- アルゴリズムを、コンパイラが理解できるようにプログラム言語を用いて書き直したものをソース・プログラムという。
- コンパイラはソース・プログラムを機械語のプログラム（実行ファイル）に翻訳してくれ、コンピュータはその実行ファイルに従って動作する。
- コンピュータを使おうと思ったら、自分の理解できる「アルゴリズム」から「ソース・プログラム」、「実行ファイル」へ、というようにコンピュータに歩み寄ってあげなければいけない。
- 人間同士の話でも、相手が理解しているかどうか反応を見ながら臨機応変に話をする必要がある。

1.7 その他、話のテクニック

- 喩え話は、話を相手の知っている似たような状況に喩えることで、理解の糸口とするもの。
- 相手が理解していなさそうなときは、違う言い回しや、違う切り口で説明をしてみよう。
- ジョークは多少下手でも良い刺激になる。

2 教科書・ノートの使い方、レポートの作法

2.1 教科書の活用法

- 教科書は本文以外のところ（序文・目次・索引・参考文献）がとても役に立つ。

- 名著ほど序文に大事な事が書いてある。
- わからない専門用語は索引を見れば定義に辿り着ける。
- 参考文献も積極的に読もう。
- 講義でできなかった部分も目を通しておこう。
- だんだん勉強は難しくなるので全てを記憶するのは無理と言うもの。しかし今度必要になった時に勉強し直せるようにキーワードを心に留めておこう。

2.2 ノートの活用法

- 大学ノートは、講義内容は右ページにのみ書き、左ページは自分で調べたこと・考えたことを書き込む為に開けておくと良い、らしい。
- 講義では板書よりも口で喋っていることの方が大事なことも多い。板書は他人のノートでも補えるから、教官の喋っていることをメモできるように。

2.3 レポートの作法

- レポートにはレポート用紙を使う。
- 必ず表紙を付けて、表紙には表題と日付け・名前を書く。
- 本などを参考にしたときも、自分の言葉で表現し直す。
- 自分なりの感想、苦労した点・工夫した点などを書いておくと良い。
- 必ずホチキスなどで綴じてから提出する。

3 日常の日本語

3.1 挨拶・礼儀は自分のため

人間、どうしても調子の悪いときがある。そんな時にまわりの人に助けてもらえるか、トドメを刺されるかは日頃の印象が別れ道。

3.2 日常の挨拶

- とりあえず「ありがとう」。
- 顔を合わせたら会釈ぐらいはしようよ。
- 言い訳はひとこと謝ってから。
- 頼み事を聞いてもらったときは必ずお礼を。
- 断りの返事は早急に。
- 他人に仕事を頼むときは、相手が仕事をやり易いように頼もう。

3.3 お天気は誰もが共有できる話題

- 年齢が近い、出身地が同じ、趣味が同じ、勉強していることが同じ、など、共通部分のある人には親近感が感じられる。
- お天気は誰もが共有できる話題なので、「いいお天気で」のひと言が話のきっかけになる。

3.4 訪問の礼儀

- 訪問は約束をしてから。
- いきなり訪問した場合は「お時間かまندیしょうか？」のひとことを。
- 質問はまず自分の考えを整理してから。

3.5 授講の礼儀

- PHS・携帯電話・ポケットベルの電源を切るのは当たり前。
- 授業中の飲み食いは論外。
- 遅刻したら後ろのドアから。
- 途中で抜け出す位ならサボれ。
- 質問は先ず担当の教官へ。
- テストに寝坊をしたときは、「風邪で寝てました」位の嘘をつくのが教官への思いやり。(寝坊では追試は認められない規則だからね。)
- 講義室、研究室のそばでは騒がない。
- 大学の建物・設備は大切に。(情科の建物を建ててもらうのに先生方は本当に苦労したんだよ。)

3.6 電話の対応

- 電話を掛ける前に用件を整理しておく。
- 「お忙しいところ申し訳ありません」、「夜分恐れ入ります」などの言い回しを覚えよう。
- 掛かってきた電話の当人が留守の場合は、取りあえず用件を聞いてみる。
- 携帯電話は基本的に遠慮しながら掛けるべきもの。